

# 戦後75年に思うこと



私は、戦後10年目に生まれた戦争を知らない世代だ。母は、従軍看護婦として志願し中国青島に渡り、父は赤紙によって召集され、叔父は、16歳で志願兵として中国に渡った。叔父は、戦後、朝鮮半島から日本に帰国する船に乗り、下関港を目前に船が沈み、帰らぬ人となった。人生これからという18歳だった。何故、少年が志願してまで国を守らなければならなかったか。本当に守らなければならなかったのは、何だったのか。天皇でも国でもない。自分や家族のいつも通りの生活だったのではなかったか。

戦争体験を話せる人は、もう僅かとなった。体験者の手記から想像し、残された映像からその時を知る時代は、もうすぐそこに来ている。貴重な体験記は、探せばかなりな数に上る。そこから知らされた事実、国は国民を守らなかった、それどころか無辜の国民を残酷に大量に死に至らしめたということだ。私たちは、大切な家族や友人を守るために何をすべきか。違憲の自衛隊が軍備増強をしたり、大国に守ってもらったために広大な基地を提供し、莫大な思いやり予算を捧げ、若い女性たちが兵士の犠牲となったりするのはもうたくさんだ。ささやかでも平和の外交を市民やNPO、NGOで力を合わせてできることはある。平和は、国民の不断の努力でしか得られないのではないだろうか。

平和部会 三谷裕美子



## 猫の多頭飼育崩壊

8月の半ばを過ぎたころ、知人の女性から「猫を飼っている家からの悪臭がひどく、保健所に相談したが話が進んでいかない。どうしたらいいだろう」という相談を受けた。私はボランティア団体\*(たんぼぼの里)や県議の協力を得て猫の所有者と会い、近所の方々と話し合いをし、9月29日猫144匹を無事県の動物愛護センターに保護してもらうことができた。その後各ボランティア団体に引き取られ優しい里親さんを探しています。

- ◇海老名市では家猫も不妊・去勢手術費用の補助対象になります。
  - ◇TNR活動(飼い主がいない猫を捕獲し不妊手術または去勢手術を受けさせ元へ戻す活動)にも補助が出ます。
- いずれも事前に申請が必要です。

多頭飼育崩壊で行き先を失った猫たちの里親、そして寄付金を募集しています。可愛い猫たちのために皆様のご協力を宜しくお願い致します。(つつ木みゆき)

ボランティア団体は皆さんからの寄付で活動しています。

### \*たんぼぼの里

〒252-0231 相模原市中央区相模原5-2-17  
MID 5丁目ビル3階 たんぼぼの里 代表 石丸雅代  
(寄付の振込先) ゆうちょ銀行  
記号10260 番号66661261 たんぼぼの里

### ●つつ木みゆきのお話タイム●

- ▶11月10日(火) 13:00~15:00 杉久保コミセン
- ▶11月13日(金) 10:00~12:00 国分北集会所
- ▶11月14日(土) 10:00~12:00 社家コミセン

このほかにも開催する場合は、地域にチラシでお知らせします。議会後には地域に向いてコミセンや個人宅などで議会報告会を行っています。問い合わせ先: つつ木 046-234-3264

**編集後記** 今回初めて知った日本学術会議とは、先の大戦において軍事協力の反省から1949年に政府から独立した国の第三者機関とのこと。権力の暴走を食い止めるための砦の一つです。黒川検事総長問題と同じように、政府に都合の良い解釈で学術会議が推薦した新会員6名を菅政権が拒否したことは、法を無視した権力の暴走です。暴走していけば戦前に戻り日本の未来はなくなるのではと危惧します。(I・S)

\*生き活きまちづくりレポートはボランティアが配布しています。お手伝いしていただける方を募集しています。事務所までご連絡ください。

報告



## 九条を守ろう

8月6日原爆忌に、神奈川新聞記者田崎基たさきもと氏を講師に憲法カフェを開催、「岐路に立つ憲法」を学んだ。

2017年安倍首相は自衛隊明記・緊急事態条項を主とした改憲を提案した。自衛隊の定義と戦力の規模を明記していないことは、日本を際限のない軍事力保持国家にしてしまうことを、又、国民の権利を制限し国家に権力を集中させることで独裁国家に陥る危険性を指摘した。

国家権力を制限し国民の権利と自由を守る憲法に基づいて政治を行う立憲政治の日本では容認できません。

立憲政治を貫くには、※ライオン(国家権力)が逃げ出さないように檻(憲法)の柵を増やして強化することが必要と述べた。集团的自衛権の容認、安保法の制定など権力の都合のよい憲法解釈をさせないためにうなずけた。

安倍政権を継承する菅政権がスタートしたが、改憲も継承される。平和を未来の子どもたちへ、今、私たちのできることは? 「九条守れ」の声とその連帯ではないか。そのためにも「憲法」を学び続けていきたい。

「憲法の話は初めてです。良く分かりました。」と参加者の声。新聞記者として、憲法学者・弁護士や政治家に直接取材した講演の内容は多角的で好評だった。(西田)



※椋大樹(はんどう たいき)著 『檻の中のライオン』より出典



神奈川ネットワーク運動のホームページの「アフターコロナ100人委員会」をクリック!

アフターコロナについて大勢の多様な意見が掲載されています。納得したり驚いたり読んでいくうちにほっこりします。